

全国水土里ネット会長賞

1. 地区概要

参加地区名：兵庫県 新野地区

表彰団体名：

事業名等：農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

工期：平成19年度～平成20年度

主要工事：水車（竹枠式揚水水車 6基）、（竹枠式動力水車 1基）、水車小屋（木造平屋造り 8.9㎡）、
農作業準備施設（木造平屋造り 86.0㎡）、遊歩道 L=349.4m、水路護岸整備 L=109.6m

2. 当該団体の概要

(1) 組織名 新野水車の会

(2) 設立年度 平成20年春設立

(3) 設立経緯

古くから残る水車と、自然が育んだ梅花藻等の貴重な自然環境を保全・活用し、地域住民のコミュニティの形成や都市と農村の交流を促進するため設立した。

(4) 主な活動

①水車の復元と維持管理

平成19年度に6基と米つき水車1基を地元の住民に手で製作。現在では、個人所有の水車3基と併せて11基の水車が昔懐かしい田園風景を復活させている。そして、毎週当番制で水車の点検、掃除を実施しており、1年に1回水路から水車を取り外し、防腐処理を施している。

②梅花藻水路の維持管理

ごみや土砂の流入を防ぐために金網を設置し、毎週当番制で水路の掃除等を行っている。

③水車まつりの開催

平成20年5月18日に「新野水車まつり」を開催し、水車・梅花藻・地域の名刹「正法寺」の見学会や特産品販売等を行った。「特産市」を、毎月第3日曜日を基本に定例開催している。

④バスツアー

ススキの名所で来年度秋公開予定の「ノルウェイの森」のロケ地にもなった砥^{とのみね}峰高原とともに民間の観光バスツアーが組まれている。

⑤地域の伝統や取り組みを紹介するパネルの展示

新野地区にある水車や梅花藻の他にもツツジの群落や熊野神社など貴重な地域資源を紹介するパネルを作成し「新野 水車の郷」に展示している。

3. 活動の概要

- ・新野地域では、水車の復元や梅花藻水路の整備等地域住民参加型の直営施工により実施している。
- ・維持管理についても、地域住民全体で協議し当番制にするなど、非常に意欲的に活動を行っている。
- ・イベント・物産市については、計画的に継続して開催されている。また、神姫バス(株)と連携し、砥峰高原のススキ祭りのバスツアーコースのルートになるなど先進的な取り組みを行っている。
- ・地域の伝統や取り組みを紹介するパネル展示を常設で行い、昔懐かしい田園風景を見てもらうことで、町内外から訪れる方にほのぼのとした安らぎを与えるとともに、地域住民、都市住民との交流を実現させ地域の活性化につなげている。

4. 農業農村整備事業の実施後の取り組み内容と効果

(1) 新野水車の会

平成20年度に農作業準備施設と水車小屋、水車が完成したのと並行して、施設の維持管理について地域で話し合いを行った。その結果、自治会とは別の組織「新野水車の会」を同年の春に立ち上げるようになった。組織は3班で構成し、それぞれ①「新野水車の郷」の管理運営②水車の維持管理③イベントの企画を行う。立ち上げ当初は、班毎に何度も協議を繰り返し、管理人の当番制や鍵の管理方法、水車のチェックリストなどを作成した。このことにより、現在イベント運営等が円滑に行われている。

(2) 水車、農作業準備施設、遊歩道、水路整備

水車の材料は兵庫県産の木材を利用し、併せて当地区が持つ技術の伝承を行う。また、水車の自然エネルギーを活用した灌漑、精米を併せて行っている。

- ①農作業準備施設は木造とし、水車と同様に兵庫県産の木材を使用した。
- ②遊歩道は自然を残すように土系舗装とし、沿道には植栽を行った。
- ③水路整備は田園景観の調和に配慮し、法面を石積みで行い、現存する手洗い場を残した。

(3) 新野水車まつり、収穫祭、バスツアー

「水車の会」立ち上げと並行して、新野水車まつりの企画・準備作業を行ったが、農作物の直売や大河内太鼓の演奏、水車群や梅花藻などの地域資源をめぐるウォーキングなどを行い、マスコミにも取り上げられテレビ放映され、大変盛況に行うことが出来た。イベント後は疲れ果てて否定的な意見が出ることを心配したが、イベント終了直後に「次はいつにしようか」という声がかかれるほどであり、現在も継続して行われている。また秋には「まるごと秋の収穫祭」も開催され、来訪者も年々増加し、バスツアーも組まれるようになった。

(4) ホームページの開設

活動状況、イベント案内等紹介するホームページを作成した。

(<http://hayabusa.web5.jp/niino>)

項 目	事業実施前	現在
平成20年度実績		
・ イベントなどの受入回数	0回	5回
及び参加人数	0人	196人
・ 神姫バスツアー（特産品販売等）の開催回数	0回	9回
及び都市交流人口	0人	291人
※平成20年度は秋シーズンのみの受入であったが、平成21年度は春シーズン（4回、71人）の受入も行った。 今後は一年を通じた受入を行いたいと考えている。		

5. 取り組みに対しての苦勞、工夫及び地域の課題克服

水車がまわる水路沿いに遊歩道を整備し、沿道に花を植栽するとともに、梅花藻水路には親水性を高め、より近くで鑑賞できるよう階段と太鼓橋を整備した。これにより、訪れる方に対してさらに新野地区のすばらしい田園風景をPRすることができ、地域の活性化にもつながるものと考えている。水車や梅花藻の保全、維持管理においても役立つものと期待する。

また、ホテルが飛び交う地域でもあり、ホテルが生息しやすい環境づくりにも取り組むことになっ

ている。

一方、課題としては、定例開催を実施している物産市等へ販売する特産品、労働力が不足している。農業従事者の高齢化がすすむなか「新野水車の会」と地域住民で水車米（水車の動力で精米したもの）等特産品の開発を行うとともに、バス会社等と連携し、バスツアーを企画するなど、都市農村交流を促進し、都市部からの労働力確保に努めている。

6. 地域づくりのための当該団体が中心（きっかけ）となり別途組織された集団

- ・組織名：新野地区活性保全隊
- ・主な活動内容：農地・水・環境保全向上対策、農地、農業用施設等維持管理、景観保全活動等
- ・当該団体との関係：大半の構成員が同一団体、平成19年度の農地・水・環境保全向上対策の事業実施に併せて設立した。

7. 本取り組みと農業

水車の動力で持ち上げる杵と石臼により、地区内で収穫した米を精米している。精米機と違い、ゆっくりと時間を掛けて精米するため、精米時に熱が発生せず、米の本来の粘りと、うま味が保たれる。

石臼はかつて各家庭で見られた足踏み式の精米（唐臼）に用いられていたものを持ち寄った。ここで搗いた米は、「水車米」として直売しており、今後のブランド化を目指している。

8. 今後の展望

新野地区では、ハード事業を起爆剤として、水車の会の立ち上げやイベントの実施、住民自らの手による水車の製作など、地域住民のコミュニティの形成の強化につながっている。今後も各種イベントの実施などを通して、都市と農村との交流を促進していく。

また、平成21年度から実施している田園空間整備事業における田園空間博物館のひとつのサテライトとして取り組むとともに、他集落にも同様の活動を広め、町全体の活性化につなげていく。



ワークショップ



水車の補修（直営施工）



復活した水車小屋



水車まつり



新野水車米

神河町新野地区の水車小屋で精米したお米です。
 精米機と違い、ゆっくり時間を掛けて精米するため、精米時に熱が発生せず、美味しく出来上がるそうです。






バスツアー

